

建築の表現

新しい建築とその表現は切れない関係にあるだろう。

本企画では、現在活躍する4つのアトリエ事務所で描かれた独特な絵に着目し、描き手にアプローチした。1枚の絵を巡る制作背景・手法・工程などを紐解くことで、今求められている表現のあり方、さらにはこれからの表現におけるヒントを探りたい。

また、建築表現に潜む設計コンセプトや設計姿勢を通して、建築と表現との密接な関係をより強く感じて頂ければと思う。そして、このような素晴らしい表現が広く認知されることを願う。

今回の発表は以下の構成とした。

展示会場：各事務所ごとに今回インタビュー対象としたもの+特徴的な作品を展示

図録広報誌『PERSPECTIVE』：インタビューの一部を掲載

当企画とその記録が、建築の設計者と描き手相互の理解を深めるものとなることを期待している。

今回取り上げたパースの制作者

インタビュー日

CAat シーラカンスタンドアソシエイツ	浜田充・山雄和真・大村真也	2014.02.21
隈研吾建築都市設計事務所	鈴木公雄	2014.03.10
NASCA	田中智之 (TASS建築研究所)	2014.03.21
SANAA	西沢立衛	2014.04.16

インタビュアー：浅古陽介

有限会社 N A U 建築デザインスタジオ
日本アーキテクチュラル・レンダラーズ協会会員

種田元晴

有限会社 種田建築研究所
日本図学会理事

上野真理

株式会社アルモ設計
日本アーキテクチュラル・レンダラーズ協会会員